

## 令和8年度全国学力・学習状況調査、i-check の分析 3年生

### ●国語

#### 【目標値に達している領域】

- ・言葉の特徴や使い方に関する事項
- ・話すこと、聞くこと・読むこと

#### 【課題のある項目】

- ・書くこと

全体として、平均正答率は本校 64.0%（県 63.0% / 全国 63.9%）となっており、多くの項目で目標値を上回り、おおむね良好な状況です。

学力層の特徴としては、中間層（11問正答：本校 18.3% / 全国 11.5%）の割合が大きい一方、高得点層（12問以上正答）は本校 26.6%（全国 33.5%）にとどまっており、高得点層への引き上げが課題となっています。

基礎的な言語知識（文法・漢字・語句）は安定しており、全国平均と同等以上の力があります。一方で、語句の辞書的な意味を踏まえて文脈上の意味を捉える問題や、条件を満たして記述する問題で正答率の低下や無解答率の高さが見られ、課題を残しています。

今後は、条件を確認して記述する学習や、正しく該当箇所を抜き出す学習を充実させるとともに、後半の問題での無解答を減らすため、時間配分を意識した問題演習を繰り返します。これにより、全体的な正答率の向上と無解答の減少を目指します。

具体的には、問題の演習を通じて大問ごとの目安時間を意識させ、後半まで解答しきれぬ時間配分を指導します。また、指定された条件に沿った文章を書く練習を取り入れて記述の質を高めるとともに、文章の精読を通じて必要な範囲を過不足なく抜き出す学習を徹底していきます。

### ●数学

#### 【目標値に達している項目】

- ・数と式
- ・図形
- ・データの活用

#### 【課題のある内容】

- ・関数

基礎の問題では目標値を2.8ポイント上回っています。また、活用の問題では一昨年は目標値を下回っており、昨年度は目標値と同等程度でしたが、今年度は目標値を3.4ポイント上回っています。基礎と活用をあわせた全体では目標値より、3ポイント上回っています。領域別に見ると、3つの項目で目標値を上回っており、「知識・技能」が定着していると考えられます。しかし、関数の項目では、目標値を0.1ポイント下回る結果になっています。また、問題形式においては、選択式、短答式、記述式の全形式で目標値を上回っています。特に記述式の問題では、全問題で目標値を上回っており、「思考・判断・表現」が定着していると考えられます。

関数領域対策としては、数式と表、グラフの関係の理解を深めるために、考えを説明する活動を多く取り入れたりすることによって力の定着を図っていきます。

## ●英語

### 【目標値に達している領域】

- ①店員と客の対話を聞き、客が注文したものを  
選択する問題（聞くこと）
- ②誕生日パーティーに関するメールを読み、最も  
適切な時刻を選択する問題（読むこと）
- ③与えられた情報に基づいて、留学生の昨日の  
出来事を説明する英文を書く問題（書くこと）

### 【課題のある項目】

- ④中学校生活の思い出や、他者への提案、  
学校で普段行うことについて説明する文  
などの条件英作文問題（書くこと）

平均正答数を見ると、3.8問／7問（兵庫県3.8問、全国3.7問）と同程度の結果となりました。

問題の内容別に見ると、「どれが適切であるか」と選択する問題に関しては、聞くこと・書くことの領域で兵庫県、全国の値よりも上回っています。特に、上記②の問題では、84.6%の正答率があり、兵庫県や全国よりも約12%高い値です。（兵庫県72.7%、全国72.4%）英語の授業で、問題に粘り強く取り組むことで、英語の基礎基本の力が育まれていると推測されます。

一方、課題としては上記④のように、条件を適切に理解し、生徒自らの経験と絡めて英文を書く力です。（本校20.5%、兵庫県27.9%、全国27.8%）対策としては、1学期より「英文を書くことへの抵抗を減らす」を目標に、定期的に「書くこと」の授業を展開しています。2学期は「抵抗を減らすから、的確な英単語や英語表現を運用できるようになる」を目標に、ALTに添削を依頼したり、よく使う表現を定着させられるように教材を工夫したりしながら、生徒自らで力をつけられる授業を展開していきます。

## ●生活習慣・学習習慣(i-check)について

生徒たちは「家族のささえ」や「生活習慣」といった基本的な生活基盤が安定しており、個人の「規範意識」についても全国平均を上回る高い水準を維持しています。「いじめのサイン」「社会参画」や「充実感と向上心」も全国平均を上回っており、「いじめを許さない姿勢」や、一人ひとりの内面的な自己肯定感、基本的なルールを守ろうとする意識はしっかりと育っていることがうかがえます。

一方で、2年生の時と比較すると「集団としての繋がり」に課題が生じています。2年生段階では強みであった「学級の規範意識」や「学級の絆」が低下し、「対話・話し合い」のスコアも全国平均を下回っています。これは、個人のモラルは高いものの、集団になるとそれが発揮されず、生徒同士の深い関わり合いや意見交換が少ない可能性があります。個人の規範意識を「学級の規範意識」へと昇華させるため、体育祭や文化祭などの学校行事、日常のグループ活動において、生徒同士が対話し協力する場を意図的に設けていきます。

また、「他者からの評価」や「感動体験」が減少し、受験を控えた重要な時期でありながら「学習意欲」や「学習習慣」が昨年度よりもさらに全国平均を4ポイント以上も下回っている点も深刻な課題です。進路選択の不安等で失われつつある自信を取り戻すため、教師からの具体的な声かけに加え、生徒同士で互いの良さを認め合い、感謝を伝える仕組みなどを積極的に取り入れ、「他者からの評価」を高め、安心できる居場所を作っていきます。学習面では、「土日や祝日など、学校が休みの日は、1日ど

れくらいの時間、勉強をしますか。」の質問に、「まったくしない」と回答した生徒が約3割、「30分以内」と回答した生徒が約2割おり、机に向かう習慣が定着しておらず、勉強に対する苦手意識やモチベーションの低下が関係しています。学習面では、まず各自で「1日30分」など確実に達成できる小さな目標を設定し、日々の「できた」という小さな成功体験や感動体験を意図的に積み重ね、それを自発的な学習のモチベーションへと結びつけられるように促していきます。学校では、2学期から、朝学習の時間を設け、毎朝10分間、全員で集中して問題に取り組む静寂の時間を作ったり、お互いのノートの良いところを褒め合う、ペアワークで教え合う時間を授業内に設けたりしていきます。進路指導においては、現在の成績だけで判断せず「高校で何をしたいか」という未来を出発点にした指導を行い、高校見学と連動させ、「この学校に行きたい」という主体的な動機付けと、合格への見通しを個別に共有していきます。ご家庭では、スマホやゲームは、中3のこの時期に無理に取り上げると、隠れて使うなど関係が悪化しますので、「勉強中はリビングに置く」「22時以降はリビングで充電する」など、本人が納得するルールを親子で話し合ってください、「勉強しなさい」を「何時から始める？」に変え、結果ではなく机に向かった行動を褒める温かい見守りをお願いいたします。今後も、学校と家庭が手を取り合い、お子様の背中を押していければと思います。ご不安な点がございましたら、いつでも担任、学年団までご相談ください。